

[361]九州大学大型計算機センターニュース :
No. 361

<https://doi.org/10.15017/4785596>

出版情報 : 九州大学大型計算機センターニュース. 361, pp.1-8, 1987-10-19. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :



1987. 10. 19

九州大学 大型計算機センターニュース

No. 361

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
広報教育室(TEL092-641-1101)
内線 2505

目 次

1. PFDのレベルアップおよびPFDEの公開について	1
2. 英論文清書システムATFのSCANNERコマンドの公開ならびに 実演のお知らせ	2
3. コマンドプロシジャ型のLISTコマンドによるラインプリンタ出力 について	4
4. SSLⅡ及びSSLⅡ/VPの障害について	5
5. UTS用漢字端末の設置について	5
6. FMR-60によるMS-DOSとホスト(OS IV/F4 MSP)間の ファイル転送について	6
7. 昭和62年度(後期)ライブラリプログラム開発計画(追加)について	8

1. PFDのレベルアップおよびPFDEの公開について

10月26日(月)より、標記システムをレベルアップ(V10/L30)します。これに伴い、以下のような機能が追加されます。詳細については、マニュアル[1]を参照して下さい。

- a. UNDOコマンドにより、更新した内容を更新前に戻すことができる。この場合、RECOVERYコマンドを先に入力しておく必要がある。
- b. データセットの編集を終了せずに、EDITコマンドにより他のデータセットの編集ができる。
- c. LCHANGE、LFINDコマンド等の論理式で変更・検索が行える。
- d. 画面分割時、両画面がEDITデータ表示画面である場合に、一方の画面から他方の画面への行の複写が行える(CE, AE, BE行コマンド)。
- e. 複写元一箇所に対し複写先を複数指定できる(CP行コマンド)。
- f. 行の併合が行える(CS, CT, MS, MT行コマンド)。
- g. FINDコマンドで、行にまたがる文字列検索ができる(OLオペランド)。

また、PFDEは利用者が所有しているデータセットをメニュー形式で統合管理するシステムです。詳細については、マニュアル[1]を参照して下さい。次に、PFDE起動のためのPFDEコマンドについて説明します。

1)入力形式

コマンド	オペランド
PFDE	[データセット名] [TTYTYPE(1 2)]

2)オペランドの説明

データセット名 : 表示対象とするデータセット名を指定する。このデータセット名には、*.FORT77やABC.*のようなワイルドカード文字も指定できる。このオペランドを省略すると、全データセットの一覧が表示される。

TTYTYPE : TTY型端末から利用する時指定する。1はF9410/9430系端末か、または、それと同等のエミュレータをもつ端末の時指定する。2はFM7/8/11系端末の時指定する。

参考文献

1. 計算機マニュアル, FACOM OS/IV MSP PFD使用手引書 プログラム開発機能編 V10用(78SP-3101-4), 富士通(株).

(ライブラリ室 電(内)2508)

2. 英論文清書システムATFのSCANNERコマンドの公開ならびに実演のお知らせ

イメージスキャナを使用してATFの清書文書中にイメージデータを取り込むことができるようになりましたのでお知らせします。使用法は次のとおりです。

- 1) ATFを起動する。
- 2) SCANNERコマンドでイメージデータを図版データセットに読み込む。
- 3) ATFテキスト中に@IP命令で図版データセット名を指定する。
- 4) NLPコマンドで日本語ラインプリンタに、あるいはIDPコマンドでディスプレイに清書出力する。

詳細については、マニュアル[1,2]およびイメージスキャナに付設の資料を参照して下さい。

使用例

READY

ATTR DCB LR(612) BL(612) RECFM(F B) DS(PS)

READY

ALLOC DA(IMAGE.DATA) SP(2 5) T US(DCB) NE CA

データセットをあらかじめ割り当てておく。

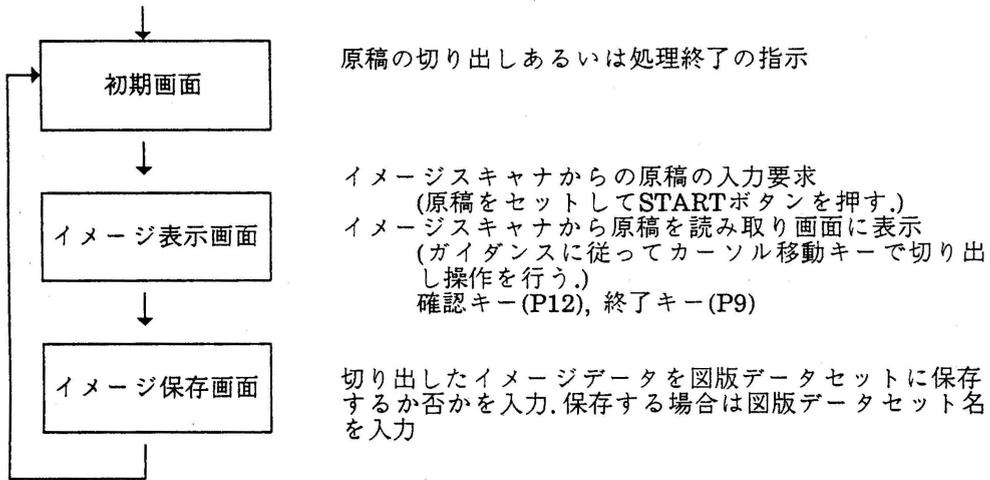
READY

ATF

***** ATF (V10/L40) 10/19/87 12:30:50 *****

READY

SCANNER



なお、下記のとおりイメージスキャナ利用の実演を行いますのでご参加下さい。

記

10月29日(木) 10時～11時, 14時～15時

参考文献

1. 計算機マニュアル FACOM ATF解説書(99SG-7260-3), 富士通(株).
2. 計算機マニュアル FACOM OSIV/F4 ATF使用手引書(78SP-7270-3), 富士通(株).

(ライブラリ室 (内) 2508)

3. コマンドプロシジャ型のLISTコマンドによるラインプリンタ出力について

先にセンターニュースNo.359でお知らせしましたように、本センターのNLP出力ではUCSおよびFCBの選択が自由に行えます。そこで、それらの指定を可能にしたコマンドプロシジャ型のLISTコマンドを用意しましたのでお知らせします。このLISTコマンドは、標準のプロセッサ型のLISTコマンドと同名のため、コマンドの先頭に“%”を付加してください。これによりコマンドプロシジャ型のLISTコマンドが起動されます。

1)入力形式

コマンド	オペランド
%LIST	データセット名 [UCS (KA10 KA12 KA15 <u>LC10</u> LC12 LC15 AS10 AS12 AS15 EL12 EL15)] [FCB (<u>B406</u> B408 B412 A406 A408 A412)] [SY (A S K <u>Q</u> U H)] [PARM (' 標準LISTコマンドのオペランド')]

2)オペランドの説明

- UCS : 文字セットと文字の大きさ(CPI)を指定する。センターニュースNo.359を参照してください。
- FCB : 印刷可能行数(LPI)を指定する。センターニュースNo.359を参照してください。
- SY : 出力クラスを指定する。
- PARM : NONUM, NOTITLE等の標準LISTコマンドのオペランドを指定する。

3)使用例

```
%LIST TEST.C UCS(AS10) PARM('NONUM,NOTITLE')
```

参考文献

1. A4版高速NLPのサービス開始について、九大大型計算機センターニュース、No.359。

(ライブラリ室 電(内)2508)

4. SSLII 及びSSLII/VPの障害について

SSLII 及びSSLII/VPに、下記に示す障害があったことが判明しました。
結果に疑問のある場合は、ライブラリ室(内線2508)にお申し出ください。

1. 障害現象

SSLII 及びSSLII/VPの固有値解法のうち、以下のルーチンで固有値・固有ベクトルが正しく求められない場合がある。

BSC1, DBSC1	実対称3重対角行列の固有値(バイセクション法)
TEIG2, DTEIG2	実対称3重対角行列の固有値及び固有ベクトル(バイセクション法, 逆反復法)
SEIG2, DSEIG2	実対称行列の固有値及び固有ベクトル(バイセクション法, 逆反復法)
GSEG2, DGSEG2	実対称行列の一般固有値及び固有ベクトル(バイセクション法, 逆反復法)
HEIG2, DHEIG2	エルミート行列の固有値及び固有ベクトル(バイセクション法, 逆反復法)

(詳細)

指定された m 個の固有値が全て求まらず、固有値が未定義(値がセットされない)になる。又は、多重固有値の個数が正しくない。

2. 発生条件

障害は、下記条件を満たす場合に、入力データ(行列の値)に依存してまれに発生する。

- ① 行列が直和分解できる時、かつ、
- ② 求める固有値がゲルシュゴリンの定理に基づく根の存在範囲の上限/下限に等しいか近接している時、又は、求める m 番目の固有値が重根の時。

なお、この障害は10月8日に修正されています。

(ライブラリ室 電(内) 2508)

5. UTS用漢字端末の設置について

UTS用漢字端末として、CIT482G(伊藤忠エレクトロニクス(株)製)3台を本センター2階デバック室に設置しました。端末タイプはvt100を使用してください。画面エディタはvi, jvi等が使用できます。この端末は漢字の入出力を行うことができ、シフトJIS漢字コードをサポートしています。shift + PF1キーを押下することにより漢字入力モードになります。漢字入力モードでは連文節変換による漢字入力が可能です。使用法の詳細については、端末横の使用手引書をご覧ください。

(第一業務掛 電(内) 2517)

6. FMR-60によるMS-DOSとホスト(OS IV/F4 MSP)間のファイル転送について
MS-DOSファイルとホストデータセット間でのファイル転送が、FMR-60端末で利用できる
ようになりました。ここでは、その利用法について説明します。

1. センター2階に設置しているFMR-60端末よりTSSセッションの開設を行う。

LOGON TSS ユーザid/パスワード

⋮

READY

2. MS-DOSファイルをデータセットに転送

2.1 ファイル転送(送信)用のTSSコマンドを入力する。

FEXPORT データセット名

新規データセットの場合

または、

FEXPORT データセット名 REPLACE

既存データセットの場合

2.2 送信するファイル形式を問い合わせてくる。

<< ファイルの送信 >>

ホストにファイルを送信します。

パラメータリストを指定する場合は、ファイル名と識別名を入力して下さい。

パラメータリスト. ファイル名=>

パラメータリスト識別名 =>

送信するファイル形式を番号で指定して下さい。=>1

(パラメータリストを指定した場合は不必要です)

1. テキストファイル

2. バイナリファイル

実行：指定完了 BREAK：転送キャンセル

2.3 送信するファイル名を問い合わせてくる。

<<テキストファイルの送信>>

送信するファイル名を指定して下さい =>A:SEND

コード変換の方法を番号で指定して下さい =>

(指定しない場合は'3'になります)

1. カナ用で変換

2. 英小文字で変換

3. エミュレータで定義されているキーボードタイプで変換

レコード形式を番号で指定して下さい =>

1. 固定長 2. 可変長 (指定しない場合は'2'になります)

レコード長を1から4096の範囲で指定して下さい =>

(指定しない場合は、固定長の時'80', 可変長の時'132'になります)

タブストップの変換方法を次の範囲で指定して下さい =>

0. 変換しない 1-20. 変換する値 (指定しない場合は'8'になります)

圧縮指定を番号で指定して下さい =>

1. 圧縮する 2. 圧縮しない (指定しない場合は'1'になります)

実行：指定完了 BREAK：転送キャンセル PF3：前画面表示

3. データセットをMS-DOSファイルに転送

3.1 ファイル転送（受信）用のTSSコマンドを入力する。

FIMPORT データセット名

3.2 受信するファイル形式を問い合わせてくる。

```
                << ファイルの受信 >>
ホストよりファイルを受信します。
  ファイル名      :
  データ長        :
  レコード形式    :
  レコード長      :
パラメータリストを指定する場合は、ファイル名と識別名を入力して下さい。
パラメータリスト、ファイル名=>
パラメータリスト識別名    =>

受信するファイル形式を番号で指定して下さい。 =>1
(パラメータリストを指定した場合は不必要です)
1. テキストファイル
2. バイナリファイル

実行：指定完了   BREAK：転送キャンセル
```

3.3 格納するファイル名を問い合わせてくる。

```
                <<テキストファイルの受信>>
格納するファイル名を指定して下さい =>A:RECEIVE
ファイルの格納方法を番号で指定して下さい =>
(指定しない場合は'1'になります)
  1. 新規または入換え
  2. 追加
コード変換の方法を番号で指定して下さい =>
(指定しない場合は'3'になります)
  1. カナ用で変換
  2. 英小文字で変換
  3. エミュレータで定義されているキーボードタイプで変換

実行：指定完了   BREAK：転送キャンセル   PF3：前画面表示
```

(第一業務掛 (内) 2517)

7. 昭和62年度(後期)ライブラリプログラム開発計画(追加)について

センターニュースNo.349以降, 承認された開発計画は下表のとおりです.

開発番号	課題名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	新規/継続
16.8	ベキ級数の演算処理	田村英之, 末岡淳男, 深田 悟, 綾部 隆, 岡部 匡 (九大・工)	1987.10.1 ~ 1988.3.31	120分	新規
16.9	調和バランス法による 定常振動の計算	田村英之, 末岡淳男, 深田 悟, 綾部 隆, 岡部 匡 (九大・工)	1987.10.1 ~ 1988.3.31	180分	新規
16.10	フーリエ級数の関数の フーリエ展開	末岡淳男, 田村英之, 深田 悟, 綾部 隆, 岡部 匡 (九大・工)	1987.10.1 ~ 1988.3.31	120分	新規
16.11	最良多項式による陰関数の 陽表示	末岡淳男, 田村英之, 深田 悟, 綾部 隆, 岡部 匡 (九大・工)	1987.10.1 ~ 1988.3.31	120分	新規

(ライブラリ室 電(内)2508)